

Veritas™ Cluster Server 管理コンソール リリースノート

AIX, ESX, HP-UX, Linux, Solaris, Windows

5.1

Veritas Cluster Server 管理コンソール リリースノート

Copyright © 2007 Symantec Corporation. All rights reserved.

Symantec、Symantec ロゴ、Veritas は、Symantec Corporation または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Symantec Corporation からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

Symantec Corporation が提供する技術文書は Symantec Corporation の著作物であり、Symantec Corporation が保有するものです。

保証の免責：技術文書は現状有姿で提供され、Symantec Corporation はその正確性や使用について何ら保証いたしません。技術文書またはこれに記載される情報はお客様の責任にてご使用ください。本書には、技術的な誤りやその他不正確な点を含んでいる可能性があります。Symantec は事前の通知なく本書を変更する権利を留保します。

使用を許諾されるソフトウェアおよび関連書類は、FAR section 12.212 および DFARS section 227.7202 に定義される「commercial computer software（商用コンピュータ・ソフトウェア）」および「commercial computer software documentation（商用コンピュータ・ソフトウェア説明書類）」であると見なされます。

Symantec Corporation
www.symantec.com

サードパーティ（第三者）製ソフトウェアの権利に関する通知

本製品には、特定のサードパーティ製ソフトウェアが配布、組み込み、または同梱されている場合があります。また、本製品のインストールおよび使用にともない、サードパーティ製ソフトウェアの使用を推奨する場合があります。同サードパーティ製ソフトウェアのライセンスは、著作権の保有者により別途付与されます。サードパーティ製ソフトウェアの権利に関する通知については、本製品ソフトウェアディスクに含まれる、サードパーティ（第三者）製ソフトウェアの権利に関する通知を参照してください。

テクニカルサポート

ご購入先にお問い合わせください。

Veritas Cluster Server 管理コンソール リリースノート

- はじめに
- 前回リリース以降の変更点
- システム必要条件
- インストールに関する注意事項
- 修正された問題
- 既知の問題
- マニュアルの補足
- マニュアルの正誤表
- ソフトウェアの制限事項
- マニュアル

はじめに

このマニュアルでは、Veritas Cluster Server (VCS) 管理コンソールバージョン 5.1 に関する重要な情報を説明します。VCS 管理コンソールのインストールの前に、このマニュアルをすべてご確認ください。

このマニュアルの最新バージョンおよびこのリリースに関する更新の情報、パッチ、ソフトウェアの問題について詳しくは、シマンテック社のテクニカルサポート Web サイトにある次の技術情報を参照してください。

<http://entsupport.symantec.com/docs/290657>

前回リリース以降の変更点

VCS 管理コンソールのバージョン 5.0 と 5.1 での主要な機能および実装の変更点は次のとおりです。

- 展開可能な新しいツリー制御により、クラスタオブジェクトとレポート間でのナビゲーションが簡単になりました。
 - [運用 (Manage)] タブにあるクラスタオブジェクトのデフォルトツリーは、1 つの Enterprise ルートとタグ解除クラスタと呼ばれる 1 つのサイトで編成されています。この内容とツリーの編成をカスタマイズし、新しいサイトを作成してからクラスタを配置して、ニーズに合わせてツリーにできます。
 - [レポート (Reports)] タブでは、レポートジョブタイプと、作成した下位レポートジョブ間をナビゲートできます。
- 強化されたクラスタの検出と設定
クラスタを名前、アドレス、または IP 範囲で検出し、管理対象エンタープライズに設定するクラスタを指定できます。これらのタスクは、1 つのコンソールページの 1 つのウィザードを使うだけで実行できます。
- 管理サーバーの新しい高可用性のある (クラスタ化) 設定
管理サーバーは、スタンドアロンシステムにインストールする、またはクラスタにインストールするという 2 つのオプションがあります。クラスタでは、管理サーバーは各クラスタノードにインストールされ、フェールオーバー用に設定されます。
- 強化されたユーザー管理
新しいインターフェースにより、ユーザー管理タスクがエンタープライズの 1 つの専用ページに統合されました。管理サーバーユーザーとクラスタユーザーを、異なる二次ページで別個に管理できるようになりました。
- 強化された業務継続性管理
新しいインターフェースにより、高可用性 / ディザスタリカバリ (HA/DR) 機能が、実装される各クラスタの専用ページに統合されました。

- 強化されたレポート
新しいツリー制御により、レポートジョブタイプや作成した個々のレポートジョブを図で参照できます。拡張された表では、レポートジョブの最終の（最近の）実行と履歴レポートジョブの実行（出力）に簡単にアクセスできます。Guest アカウントでは、カスタムレポートのための読み取り専用アクセスが可能です。
- VM サービスグループの移行に対するサポート
サービスグループを ESX サーバー上の仮想マシンから別の ESX サーバー上の別の VM に移行できるようになりました。
- Windows インストーラが VPI ベースになりました。新しい Windows インストーラと VCS Windows インストーラには共通した操作感があります。
- Opteron 5.0、ESX 5.1、LOP（CMC 5.0 以降のリリース）での VCS に対するサポート
- 新しいデフォルトのインストールディレクトリは次のとおりです。
 - UNIX の場合 - /opt/VRTScmcm/
 - Windows の場合 - c:\Program Files\Symantec\VRTScmcm\
- 新しい VRTSWeb 設定コマンドディレクトリは次のとおりです。
 - UNIX の場合 - /opt/VRTScmcm/VRTSweb/bin/
 - Windows の場合 - C:\Program Files\Symantec\VRTScmcm\VRTSweb\bin\
- 新しいアンインストーラの場所は次のとおりです。
 - UNIX の場合
 - solaris/sparc/uninstallcmcまたは
 - /opt/VRTS/install
 - Windows の場合
[スタート]、[設定]、[コントロールパネル]、[プログラムの追加と削除] の順に選択します。
[プログラムの追加と削除] コントロールパネルの [現在インストールされているプログラム] リストで、[VCS Management Console 5.1 for Windows] をクリックします。
- 新しいパッケージ名と製品ディスクの場所
詳しくは、『Veritas Cluster Server 管理コンソール実装ガイド』のインストールのトピックを参照してください。
- 管理サーバーおよびクラスタコネクタのインストール後設定
- Web サーバーの VRTSWeb とデータベースは、管理サーバーに組み込まれるようになりました。

システム必要条件

VCS 管理コンソールソフトウェアコンポーネントは、次の表で指定されたオペレーティングシステムと VCS バージョンをサポートします。ここに掲載された情報は、『Veritas Cluster Server 管理コンソール実装ガイド』に掲載された情報に優先します。

表 1-1 サポート対象オペレーティングシステムと VCS のバージョン

コンポーネント	サポート対象オペレーティングシステムと VCS のバージョン
<p>管理サーバー (スタンドアロンシステム)</p> <p>管理サーバーは、管理対象クラスタの外部にあるスタンドアロンシステム上にインストールします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ Solaris (SPARC) バージョン 8、9、10、32 または 64 ビット (Sun 社から指示されたパッチを適用済み)。 ■ Windows Server 2003 Standard Edition、Datacenter Edition、Enterprise Edition、Web Edition、32 または 64 ビット (x64、AMD64、IA64) (Microsoft 社から指示されたパッチを適用済み) <p>VCS 管理コンソールをインストールする前に、Windows Management Instrumentation (WMI) を Windows 2003 システムにインストールする必要があります。</p>
<p>管理サーバー (クラスタインストール)</p> <p>管理サーバーをクラスタにインストールして、使用中の管理サーバーに高可用性を追加します。</p>	<p>管理サーバーのクラスタ化でサポートされる VCS のバージョンは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ VCS for Solaris (SPARC) 5.0 MP1 ■ VCS for Windows 5.0 <p>個別のプラットフォームとバージョンに関する VCS の必要条件については、VCS のマニュアルを参照してください。VCS クラスタはセキュアモードで設定する必要があります。</p>

表 1-1 サポート対象オペレーティングシステムと VCS のバージョン

コンポーネント	サポート対象オペレーティングシステムと VCS のバージョン
<p>クラスタコネクタ クラスタコネクタは、管理対象クラスタにインストールします。</p>	<p>AIX</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ VCS バージョン : 4.0、4.0 MP1、4.0 MP2、4.0 MP3、4.0 MP4、5.0、5.0 MP1 ■ OS バージョン : AIX 5.2 ML6 (レガシー) 以降、AIX 5.3 TL4 (SP 3 適用済み) 以降 AIX 5.1 で動作するクラスタを管理するには、直接接続を使います。 <p>HP-UX</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ VCS バージョン : 4.1、5.0、5.0 MP1 ■ OS バージョン : HP-UX 11i v2 <p>Linux</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ VCS バージョン : 4.0、4.0 MP1、4.0 MP2、4.1、4.1 MP1、4.1 MP2、4.1 MP3、4.1 MP4、5.0、5.0 MP1、5.0 MP2 ■ OS バージョン : RHEL 4.3、RHEL 5、SLES 9、SLES 10 RHEL 3.0 を実行するクラスタを管理するには、直接接続を使います。 <p>IBM System p での Linux</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ VCS バージョン : 5.0 ■ OS バージョン : RHEL 4、SLES 9 <p>Solaris (SPARC)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ VCS バージョン : 4.0、4.0 MP1、4.0 MP2、4.1、4.1 MP1、4.1 MP2、5.0、5.0 MP1 ■ OS バージョン : 8、9、10 Solaris 7 で動作するクラスタを管理するには、直接接続を使います。 <p>Solaris (x64)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 4.1、4.1 MP1、5.0 ■ OS バージョン : 10 <p>Windows</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ VCS バージョン : 4.1、4.2、4.2 RP1、4.2 RP2、4.3、4.3 MP1、4.3 MP2、5.0、5.0 MP1 ■ OS バージョン <ul style="list-style-type: none"> - Windows 2000 Server、Advanced Server、Datacenter (SP4 または Microsoft 社から指示されたパッチを適用済み) - Windows Server 2003 Standard Edition、Datacenter Edition、Enterprise Edition、Web Edition (Microsoft 社から指示されたパッチを適用済み)

サポートするブラウザ

VCS 管理コンソールは次のブラウザをサポートしています。

- Microsoft Internet Explorer 6.0x、7.0 以降
- Windows 上の Firefox 1.5、2.0 以降

必須プラグイン

コンソールには、Macromedia Flash Plugin のバージョン 8 または 9 も必要です。バージョン 9.0 をお勧めします。

推奨される管理サーバーハードウェア

お勧めするシステムの最低必要条件は次のとおりです。

- CPU 2 つ
- 2 GB の RAM

ハードウェア互換性リスト (HCL)

Veritas Storage Foundation and High Availability Solutions 5.0 Maintenance Pack 1 および 5.0 Maintenance Pack 2 (RHEL、SLES、OEL の SFCFS for Oracle RAC) のハードウェア互換性リストは、次の場所にあります。

- http://ftp.support.veritas.com/pub/support/products/Foundation_Suite/283161.pdf

Veritas Storage Foundation and High Availability Solutions 5.0 for Windows のハードウェア互換性リスト (HCL) は次の場所にあります。

- http://ftp.support.veritas.com/pub/support/products/Storage_Foundation_for_Windows/286541.pdf

インストールに関する注意事項

インストール後の最終手順として、このリリースに使用可能なパッチや更新があるかどうかを確認します。最新マニュアルへの技術情報のリンクをご覧ください。

<http://entsupport.symantec.com/docs/290657>

詳細なインストール情報について詳しくは、次のセクションを参照してください。

- 9 ページの「クラスタコネクタのインストールとアンインストールに関する問題」を参照してください。
- 10 ページの「インストールとアンインストールに関するその他の問題」を参照してください。

修正された問題

クラスタコネクタのインストールに Symantec Product Authentication Service 4.3.x は不要

Symantec Product Authentication Service 4.3.x を持つシステム、または最低でも認証ブローカーがインストールされたシステムからクラスタコネクタをインストールする必要があるという問題が修正されました。[611353]

クラスタコネクタのアンインストールによる [プログラムの追加と削除] エントリの削除

Windows クラスタノードでクラスタコネクタをアンインストールした後、[プログラムの追加と削除] コントロールパネルにはクラスタコネクタのエントリが表示されなくなりました。[784241]

CLI から実行する gagrp コマンドのさまざまなエラーを修正

`gagrp -value -sys [764347]`、`gagrp -clearadminwait [765686]`、`gagrp -clear [767779]` の各コマンドを実行しても、各種エラーが発生しなくなりました。

Service Account の 5 文字のパスワードが必須ではなくなる

`setup.bat` ファイルを実行して管理サーバーをインストールする場合に、[サービスアカウントのパスワード (Service Account Password)] パネルで、少なくとも 5 文字のパスワードを設定するように要求されなくなりました。[780899]

日本語文字を含むパスへのデータベースのバックアップ またはリストア

コマンド `gadb -backup` を実行している場合、日本語文字を含む指定されたパスをデータベースがバックアップまたはリストアします。[767796]

セキュアクラスタのクラスタコネクタのアンインストールで VxSS サービスグループがフリーズしたままにならない

UNIX では、セキュアクラスタからのクラスタコネクタを削除するとき、VxSS サービスグループが正常にアンフリーズされるようになりました。[619106]

クラスタ管理コンソールのコントロールが適切なときに アクティブになる

一部のバージョンの **Internet Explorer** では、コントロールをアクティブにするために、GUI コントロール（ボタン、ドロップダウンメニュー、ラジオボタンなど）を 1 回クリックする必要がなくなりました。[603415]

クラスタコネクタのバージョン属性の値は設定後に示される

`ClusterConnectorVersion` 属性の値は、クラスタコネクタが設定された後に `clusterconnector.conf` ファイルに示されます。[844177]

既知の問題

Veritas Cluster Server 管理コンソールでは、次の問題を調査中です。

既知の問題と最新情報について詳しくは、<http://entsupport.symantec.com/docs/290657> を参照してください。

クラスタコネクタのインストールとアンインストールに関する問題

Solaris インストール応答ファイルを使うことで、余分なパッケージが追加されることがある

クラスタコネクタのインストールに、応答ファイルを `installcm` とともに使うと、インストーラは、予定したパッケージ (VRTScmccc と VRTSjre15) の他に余分なパッケージ VRTScmcm をインストールしようとします。[1114382]

回避策 : 余分なパッケージ VRTScmcm を手動で削除します。次のコマンドを実行します。

```
pkgrm VRTScmcm
```

CMC のインストールに国際文字を使っている場合、CMC サービスグループがオンライン化に失敗する

クラスタコネクタを Windows にインストールする場合、インストールパスに国際文字を使わないでください。国際文字を使うと、CMC サービスグループがオンラインになりません。[1125937]

回避策 : Windows インストールのすべてのディレクトリパスには ASCII 文字を使います。

クラスタコネクタのインストールの後、CMC グループがオンライン状態にならない

インストールの後、CMC サービスグループがオンライン状態にならない場合があります。これは、クラスタコネクタが管理サーバーで認証されないためです。インストーラによって、古いバージョンの Symantec Product Authentication Service がアップグレードされます。クラスタコネクタのインストール中に Symantec Product Authentication Service ファイルは使われないため、それらの Symantec Product Authentication Service ファイルの中でも特に AtWrapper.jar ファイルが更新されない可能性があります。[780787]

回避策 : 認証をアップグレードするために、システムを再起動します。

Windows にインストールされたクラスタコネクタをアンインストールすると、空のフォルダが残る

Windows にインストールされたクラスタコネクタをアンインストールした後に、空のフォルダが残ります。

デフォルトのパスは、C:\Program Files\Veritas です。

回避策：アンインストール後に空のフォルダを削除します。

2つのノードでクラスタコネクタを同時にアンインストールすると、クラスタの設定が OPEN 状態のままになる

クラスタコネクタのアンインストール時に、クラスタコネクタのインストーラは VCS HA コマンドを発行して CMC サービスグループを削除します。コマンドを発行するためには、インストーラが設定を開き、コマンドの発行後に閉じる必要があります。

2つのクラスタコネクタのアンインストールをクラスタの2つの異なるノードで同時に実行すると、最初のノードのインストーラが HA コマンドを発行し、設定を閉じます。2番目のノードのインストーラが発行した HA コマンドは、設定が閉じているために失敗します。

クラスタコネクタのアンインストール後、設定が閉じなくなり、代わりにダンプします。[1110552, 1113954]

インストールとアンインストールに関するその他の問題

管理サーバー 5.1 にアップグレードした後に、一部のコンソールショートカットが削除されない

あるユーザーとして製品をインストールし、別のユーザーとしてログインして製品のアップグレードまたはアンインストールを行うと、古い製品へのデスクトップショートカットが最初のユーザーのデスクトップから削除されません。

[1113954]

インストールに日本語を使うと、一部のページでゆがみが発生する

日本語を選択した状態でインストーラが実行されると、インストールオプションと著作権ページでゆがみが発生します。[1113954]

シングルクラスタモードと管理サーバー 5.1 が同一 Windows システム上に存在できない

SCM がインストールされているノードに管理サーバー 5.1 をインストールする場合、管理サーバー 5.1 のインストーラは、管理サーバーのアップグレードプロ

セスの一部として SCM をアンインストールします。インストール後に、すべての SCM ファイルと設定が失われ、SCM コンソールを実行できなくなります。
[1113954]

アップグレードモードで管理サーバーのインストーラを使う前に Cluster Manager (Java コンソール) と AT インスタンスが閉じる

シングルクラスタモードから管理サーバー 5.1 にアップグレードするとき、管理サーバー 5.1 のインストーラは VRTSjre パッケージをアップグレードします。ただし、アップグレード時に VRTSjre ファイルが使用中になっている場合、Java コンソールと AT GUI を実行するために、システムを再ブートする必要があります。

回避策: 管理サーバー 5.1 アップグレードを実行する前に、Java コンソールと AT GUI インスタンスを停止して閉じます。Java コンソールと AT GUI が起動されない場合は、両者が存在するノードを再ブートします。[1113954]

[プログラムの追加と削除] を使って Windows 管理サーバーをアンインストールすると、空のフォルダが残る

[プログラムの追加と削除] を使って Windows 管理サーバーをアンインストールした後に、クラスタ管理コンソールの空のフォルダが残ります。

デフォルトのパスは、C:\Program Files\Veritas です。

回避策: アンインストール後に空のフォルダを削除します。

ターミナルサービスを使った Windows インストールには Service Pack 4 が必要

Microsoft 社により、少なくとも Service Pack 4 が適用されていない Windows 2000 では、ターミナルサービス上で同じレジストリキーを変更する複数の MSI ファイルをインストールするときに問題が起きることが報告されています。

回避策: ターミナルサービスを使って Windows 2000 ホストをインストールする場合、システムに Windows 2000 Service Pack 4 がインストールされていることを確認してください。

同時インストールに関する VPI メッセージ

VPI インストーラによって、インストール中またはアンインストール中に次のエラーが生成されることがあります。

エラー 15000: 別のインストールが現在行われています。このインストールが完了しなければ、新たにインストールを行うことはできません。

(Error 15000: Another installation is in progress. You must complete that installation before continuing this one.)

このエラーは、別の VPI インストールまたは他の製品のインストールがバックグラウンドで実行されている場合に起きる可能性があります。以前に失敗したコンソールのインストールでもこのエラーが起きる可能性があります。[1132913]

回避策：他の製品がバックグラウンドでインストールされている場合は、そのインストールを完了または中止してから VCS 管理コンソールをインストールします。以前に失敗したコンソールのインストールが原因でエラーが起きた場合は、製品ディスクの `tools\vpvpi` ディレクトリにあるクリーンアップユーティリティを実行します。クリーンアップユーティリティを実行後、システムを再ブートして別のコンソールのインストールを開始します。

Windows 上のクラスタ化管理サーバーを設定解除できないことがある

次の両方の条件が当てはまる場合は、Windows プラットフォーム上のクラスタ化管理サーバーを設定解除できない可能性があります。[1137120]

- 管理サーバーが [プログラムの追加と削除] でアンインストールされた場合
- システム PATH 変数にアンインストール実行時の VCS HA コマンドのフォルダがない場合

新しく VCS をインストールした後に管理サーバーをインストールする場合は、管理サーバーをアンインストールする前に次の操作を必ず実行してください。

アンインストールの準備をするには

- 1 VCS バイナリのフォルダをシステム PATH 環境変数に追加します。
- 2 クラスタノードを再ブートします。

クラスタ化管理サーバーをアンインストールするとファイルが残る

クラスタ化（高可用性）管理サーバーをアンインストールした後に、次のファイルが残ります。[1136293]

```
C:\Program Files\Veritas\cluster server\bin\CMCServerConfig\CMCServerConfig.dll
```

回避策：手動でこのファイルを削除する必要があります。

[プログラムの追加と削除] を使ってクラスタコネクタをアンインストールするとファイルが残る

Windows プラットフォームで [プログラムの追加と削除] を使ってクラスタコネクタをアンインストールした場合は、サービスグループは削除されますが、一部のファイルが削除されません。[1139151].

次のファイルとフォルダが残ります。

- ファイル : C:\Program Files\Veritas\cluster server\bin\ClusterConnectorConfig\clusterconnectorconfig.dll
 - ファイル : C:\Program Files\Veritas\cluster server\conf\config\ClusterConnectorType.cf
 - フォルダ : C:\Program Files (x86)\Symantec\VRTScmccc\bin\unconfigure
- 回避策 : クラスタコネクタのアンインストール後にこれらのファイルとフォルダを手動でクラスタノードから削除します。

管理サーバーをバージョン 5.1 にアップグレードするとログが失われる可能性がある

管理サーバーをバージョン 5.1 にアップグレードすると、古いクラスタログが失われることがあります。[1136292]

回避策 : Hotfix 情報については LBN を参照してください。

設定後に [サーバーを停止しています (Stopping server)] メッセージが消えないことがある

アップグレード後の管理サーバー設定画面を完了した後に、メッセージ [サーバーを停止しています (Stopping server)] が表示され、それ以降の処理に進んでいるように見えません。このメッセージは、サーバーが正常に再起動した後も画面に残ります。[1135850]

回避策 : メッセージボックスの [閉じる (Close)] リンクをクリックした後に、ログインページへのリンクをクリックできます。ログインページへのリンクは、下位のページに表示されます。

国際文字を使うと管理サーバーの設定が失敗する

インストール中にインストールパスに国際文字を入力できます。入力した場合、インストールはエラーなしで完了します。ただし、その後再起動してログインすることができません (この操作は、管理サーバーを設定するために必要です)。[1119070]

回避策 : Windows インストールのすべてのディレクトリパスには ASCII 文字を使います。

/opt/VRTS/install から実行するとコマンドラインオプションが機能しない

/opt/VRTS/install から実行すると、installcmc オプションと uninstallcmc オプションが機能しません。[973102]

回避策 :

- 1 次のいずれかの方法でクラスタコネクタを設定解除します（設定されている場合）
 - 次のコマンドを実行します。
`/opt/VRTScmccc/bin/unconfigure/cc_unconfigure.sh`
 - クラスタの削除ウィザードを使います。
[Administration (管理)]、[設定済みクラスタ (Configured Clusters)]、[クラスタの削除 (Remove Clusters)] の順に選択します。
- 2 VRTScmccc パッケージをアンインストールします。
次のコマンドを入力します。
`rpm -e VRTScmccc`

操作上の問題

グローバルクラスタを削除してもグローバルアイコンがナビゲーションバーに引き続き表示される

グローバルクラスタオプション付きのシステムでは、Web GUI からリモートクラスタを削除しても、そのクラスタのアイコンがグローバルとしてナビゲーションツリーに表示され続けます。[詳細 (Details)] タブバーでは、ローカルアイコンとして表示されます。[1129390]

クラスタが非セキュアからセキュアに昇格するとクラスタ権限が失われる

クラスタが非セキュアからセキュアに昇格すると、そのクラスタでの CMC ユーザーの既存の権限が失われます。[1134859]

オンラインヘルプの使用、.png ファイルが表示されない

ブラウザでは、.png ファイルタイプを使っているグラフィックは表示されません。[1134337]

回避策 : Veritas Cluster Server 管理コンソールの PDF ファイルを使います。

Symantec Web サーバーの管理の付録の更新版は実装ガイドの PDF にある

オンラインバージョンの代わりに、『Veritas Cluster Server 管理コンソール実装ガイド』の「Symantec Web サーバーの管理」というタイトルの付録を使ってください。[1134076]

異なるロケールを使って VCS MC Web コンソールにログインすると、ブラウザで最後に開いたロケールが表示されることがある

同じユーザー ID で 2 つのセッションが開かれ、それぞれのセッションで異なるロケールが使われると、最初にログインしたセッションで 2 番目の言語のロケールが表示されることがあります。[1133984]

[管理サーバー (Management Server)] ページで、操作中断エラーが一貫性なく発生することがある

Windows で Internet Explorer 7.0 を使っているとき、操作中断エラーが表示されます。このエラーは無視しても安全です。[1133944]

CCVAILGUEST データベースアカウントへのアクセス

5.1 以前では、CCAVAILGUEST データベースアカウントには、選択した少数の表だけにアクセスできる Read アクセスがありました。この Read アクセスで、すべての表にアクセスできるようになりました。[1012771]

管理サーバーからのクラスタの削除後、内部ユーザーが削除される

管理用にクラスタを設定するとき、VCS クラスタ管理コンソールにより、次の内部ユーザーが管理対象クラスタに追加されます。

セキュアモードで設定されているクラスタの場合：

- クラスタが直接接続で管理サーバーに接続する場合、作成されるユーザーは、`CMC@CMC_SERVICES@vcsmc_hostname` です。
- クラスタがクラスタコネクタで管理サーバーに接続する場合、作成されるユーザーは、`CMC_HAD@HA_SERVICES@vcs_hostname` です。

セキュアモードで設定されていないクラスタの場合：

- クラスタが直接接続で管理サーバーに接続する場合、作成されるユーザーは、`CMC_AT_CMC_SERVICES_AT_vcsmc_hostname` です。
- クラスタがクラスタコネクタで管理サーバーに接続する場合、内部ユーザーは追加されません。

変数 `vcsmc_hostname` は、管理サーバーが設定されているホスト名です。管理サーバーがクラスタ化されている場合、クラスタ化ノードそれぞれに上記ユーザーが存在します。

変数 `vcs_hostname` は、クラスタコネクタが最低でも 1 回オンラインになる VCS ホストです。

管理サーバーからクラスタを削除した後、VCS CLI または VCS Java コンソールを使ってこれらのユーザーを削除する必要があります。[1060058]

ピアセットアップでシステム上の古い Site タグを削除できない

管理サーバー間にピアの関係が存在する場合、そのピア関係を削除しない限り、Site タグは削除できません。Site タグの削除後にピア関係が確立されている場合、新しいピア関係が Site タグの作成されていないシステムとの関係であっても、両方のピアに Site タグが再作成されます。[1115071]

CMC_MS サービスグループは、マップされたドライブが Windows プラットフォームで使われている場合にオンライン状態になれない

VCS のプロセスエージェントは、マップされたディレクトリの下にあるバイナリファイルを検索できません。[1062647]

回避策 : CMC_MS サービスグループにマップされたドライブを使わないでください。

セキュアグローバルグループで Switch リモート 操作を行うとエラーが発生することがある

セキュアクラスタで設定されているグローバルグループの場合、グループがオフライン状態のクラスタからリモート操作「Switch」が開始されると、エラーが表示されます。[1131558]

エラーの例は次のとおりです。

```
操作を正常に完了できませんでした。(The operation could not be completed successfully.)
Command: hagrpl -switch global_grp -any
Result: V-16-1-50824 :Command (hagrpl -switch -any global_grp localclus ) failed.At least Group Operator privilege required on remote cluster hp50mp1_51cc_single
```

回避策 :

- オンライン状態のグローバルグループアイコンをクリックし、プルダウンメニューからリモート操作「Switch」を実行して、そのグループをリモートクラスタに切り替えます。
- グループの切り替えには VCSMC CLI コマンドを使います。構文では、コマンドを実行するクラスタにより修飾されるグループ名が必要で、宛先クラスタには "-localclus" の代わりに "-torclus cluster" を使います。これらは同じ場合もあり、グループがオンライン状態になっていないクラスタの場合もあります。例:

```
# hagrpl -switch cluster_local:global_grp -any -torclus cluster_local
```

UI 経由で管理サーバーに接続すると、IE7 には常に [信用されていない証明書] ボックスが表示される

ブラウザのトラストストアにルート権限がないためにボックスが表示されます。サーバーがセキュアであることに注意します。[1098070]

クラスタ設定ウィザードでは、4.0 以前のバージョンに接続しようとするときにエラーメッセージが表示されない

直接接続クラスタ設定ウィザードでは、4.0 以前のバージョンに接続しようとするときにエラーメッセージが表示されません。[512758]

VCS 管理コンソールのユーザー名とドメインに国際文字を使わない

VCS 管理コンソールのユーザー名とドメインに国際文字を使わないでください。[1129049]

通常とは異なる設定の問題があると、管理サーバーでは接続されていないクラスタが接続されているように表示されることがある

管理サーバーは、クラスタ内の複数のシステムで実行しているクラスタコネクタからの接続を拒否するように設計されています。これは、VCS でスプリットブレイク状態になったときにデータベースの損傷を避けるためのものです。

[1128958]

通常とは異なる接続の問題またはセキュリティソフトウェアの設定の問題があると、管理サーバーでは接続されていないクラスタが接続されているように表示されることがあります。管理サーバーは、クラスタコネクタをシャットダウンするように信号を送信し、クラスタの CMC サービスグループでは、障害が発生します。ClusterConnector-0.log ファイルでは、次のようなメッセージが表示されません。

```
2007-09-10 18:08:46 INFO [ConnectorImpl.run] Connection MasterLink starting main listening loop.
2007-09-10 18:08:46 INFO [ListenerImpl.stopClusterMonitor] Cluster Monitor Stopping CC for Cluster 0ad9d5e7-68ef-486d-b129-07ec770b8d39 is already connected.Stopping CC.
2007-09-10 18:08:46 INFO [StateManagerImpl.setState] State changed from RUNNING to EXITING
2007-09-10 18:08:46 INFO [ConnectionManager.ExitingTask_go] Connection Manager is exiting the loop.
2007-09-10 18:08:46 INFO [StateManagerImpl.setState] State changed from EXITING to EXITING
2007-09-10 18:08:46 INFO [ConnectionManager.run] Coming out of main connection loop.
2007-09-10 18:08:46 INFO [ClusterMonitor.start] CM is stopping
```

```
2007-09-10 18:08:46 INFO [ClusterMonitor.run] STOP requested from
external source.Requesting shutdown of cluster connector.
2007-09-10 18:08:46 INFO [ConnectionManager.shutdown] Sending
exiting message to management server.
2007-09-10 18:08:46 INFO [MasterConnector.onExiting] CC
exiting.Sending message IpmHeader[code=MSG_CLUSTER_EXIT
(c10),channel=1,sender=0,number=0,sequence=0,flags=(0),version=2.0,
extFlags=(0),reserved=0]IpmParam[ ]
2007-09-10 18:08:46 INFO [StateManagerImpl.setState] State changed
from EXITING to EXITING
```

回避策:

- クラスタコネクタの Java プロセスが、クラスタノードのいずれでも実行されていないことを確認します。実行されている場合は、プロセスを強制終了します。
- 管理サーバー Web コンソールで、[管理 (Admin)] タブ、[設定済みクラスタ (Configured Clusters)] の順に移動します。対象クラスタの左にあるチェックボックスをクリックして選択します。画面右側の [接続 (Connection)] 列で [無効化 (Disable)] リンクをクリックし、管理サーバーに対してクラスタがすでに接続済みであることを示すフラグをクリアします。
- クラスタでは障害をクリアし、CMC サービスグループをオンライン状態にします。クラスタは管理サーバーを再接続し、スナップショットプロセスが進行します。

gaserver -delete では、デフォルトの認証ブローカーを削除できる

gaserver -delete コマンドを使う場合、デフォルトの認証ブローカーを削除できます。[1129038]

同じ名前を持つ2つのクラスタを管理サーバーに追加すると、通知の問題が発生することがある

管理サーバーに同じ名前を持つ別のクラスタが追加されると、通知ポリシーは機能しないことがあります。[1125999]

Enterprise の概略に、ときどき誤ったクラスタの総数が表示される

VCS 管理コンソールで設定されたクラスタの状態が SYNCHRONIZING から ONLINE に変化したとき、クラスタのエントリが VCS 管理コンソール Web コンソールでは少しの間表示されなくなり、ONLINE 状態になった後で再度表示されます。[1108501]

Windows システム上で実行されるとき、シミュレータでは Windows プラットフォームだけが表示される

シミュレータを Windows プラットフォームで実行するとき、設定されたプラットフォームに関係なく、Windows クラスタが表示されます。[932676]

ポート番号に英字を使うとエラーの原因となることがある

[リモートクラスタ認証 (Remote Cluster Authentication)] ページでグローバルグループを設定するとき、ポートには英字を使わないでください。[928574]

回避策: ポートには数値だけを入力します。

クラスタ管理コンソールで致命的エラーが表示される

エージェントの無効な XML ファイルに遭遇すると、CMC によって VRTSweb ログファイルに致命的エラーが記録されます。

[595973]

回避策: ありません。カスタムエージェントの XML ファイルが有効であることを確認してください。

AIX の ClusterConnectorConfigType.cf ファイルの誤ったファイルサイズエラー

5.0 MP1 installmp スクリプトを使って保守パッチを VRTScmccc.rte ファイルセットに適用し、次に `installp -r VRTScmccc.rte` コマンドを使ってパッチを拒否する場合、次のエラーメッセージが表示されます。[806706]

```
sysck: 3001-049 Wrong file size. The file /etc/VRTSvcs/conf/config/ClusterConnectorConfigType.cf has an actual size of 754 bytes (expected size: 789 bytes).
```

```
sysck: 3001-017 Errors were detected validating the files for package VRTScmccc.rte.
```

回避策: これらのメッセージは無視して構いません。/etc/VRTSvcs/conf/config/ClusterConnectorConfigType.cf ファイルは、もとの 5.0GA バージョンに復元されます。

このエラーは、VRTScmccc.rte ファイルセット固有のものです。VRTScmcs.rte ファイルセットは、`installp -r` コマンドを使って拒否するときにエラーを表示することはありません。

設定の変更後、ウィザードや操作ポップアップによって設定が閉じられない

設定の変更を行っているとき、読み取り専用の場合はウィザードにより設定が開かれます。ただし、操作が完了しても、設定が閉じられることはありません。

[1064500]

回避策 : 設定は手動で閉じます。

ユーザーのドメイン名が 768 文字に制限される

ユーザーのドメイン名を作成するとき、文字数は 768 文字に制限します。それより長いドメイン名にすると、ソフトウェアの問題が発生する可能性があります。[621763]

クラスタを非セキュアからセキュアに再設定した後、ユーザーの権限がゲストに変更される

クラスタを非セキュアからセキュアに再設定した後、ユーザーの権限を再設定する必要があります。[1078317]

クラスタ (Clusters) ウィザードで [権限の割り当て (Assign Privileges)] を使っているとき、既存ユーザーの権限の変更が累積される

ユーザーインターフェースから既存ユーザーの権限を変更する場合、権限が累積されます。たとえば、ウィザードを使ってユーザーの権限を管理者からオペレータに変更する場合、ユーザーは両方の権限を持つこととなります。[1125944]

回避策 : クラスタユーザーの権限を削除したい場合は、[クラスタ (Cluster)] ユーザーページで権限を削除します。

クラスタの検出 / 追加 (Discover/Add Clusters) ウィザードで無効な IP アドレスが受け付けられる

クラスタの検出 / 追加 (Discover/Add Clusters) ウィザードを使う場合、検索基準ページを選択し、無効な IP アドレス (10.217.60.600 など) を入力すると、ウィザードが誤った IP アドレス形式のエラーを投げません。[1129048]

回避策 : 有効な IP アドレスを使います。

[通知ポリシーの編集 (Edit Notification Policies)] ボタンのツールヒントに誤ったテキストが表示される

[通知ポリシーの編集 (Edit Notification Policies)] ボタンのツールヒントでは、[通知ポリシーの編集 (Edit Notification Policy)] の代わりに [通知ポリシーの削除 (Delete Notification Policy)] が表示されます。[1126013]

管理サーバー : 1 つ以上の選択したオブジェクトが削除されると、レポート生成が失敗する

オブジェクトの 1 つがレポートジョブで定義されてからその後に削除された場合、レポートの実行が失敗することがあります。レポートで定義されているオブ

ジェクトが、変わらずに管理サーバーで管理されていることを確認します。
[1129026]

5.1 からアップグレードされたスタンドアロン Solaris 管理サーバーでは、以前のマニュアルパッケージがアンインストールされない

5.1 リリースでは、マニュアルパッケージ (VRTScmcdc) はインストールされません。マニュアルの以前のバージョンは、システムから削除されません。
[1127888]

回避策: アップグレードしたシステムにある古いマニュアルパッケージを手動で削除します。

管理サーバーでの削除後も削除ログが [ログ (Logs)] ページに表示される

削除ログはデータベースからログを削除しますが、検索インデックスからは削除しません。したがって、さまざまなオブジェクトの [ログ (Logs)] ページに引き続き表示されます。[1121756]

ピア管理サーバーの設定が同じプラットフォームでなければならない

VCS 管理コンソールの現在のリリースは、混合プラットフォーム管理サーバーをサポートしません。ピア管理サーバーを設定する場合、もとの管理サーバーと同じプラットフォーム (Solaris または Windows) になっている必要があります。
[1099230]

ピア管理サーバーへのユーザーの追加はサポート対象外

VCS 管理コンソールでは現在、ピア管理サーバーまたはピア管理サーバーに設定されているクラスターへのユーザーの追加をサポートしていません。ユーザーは追加できますがその権限を適切に設定できない可能性があります。権限を適切に設定できなかった場合は、一部のタスクを利用できなくなります。
[1137105]

回避策: この問題は、Hotfix で対応する予定です。Hotfix 情報については LBN を参照してください。

Windows で国際文字を使うとき、管理コンソールの設定が失敗する

Windows で国際文字を使った管理コンソールのデータディレクトリを指定すると、エラーメッセージが表示されます。
[1112199]

回避策: 設定のすべてのディレクトリパスには ASCII 文字を使います。

gauser コマンドを実行するとエラーメッセージが表示される

gauser -add コマンドを実行すると、「予期しないセキュリティエラー」のメッセージが表示されます。[767707]

回避策: gauser -add コマンドを使うときは、512 文字を超えるユーザー名を定義しないでください。

アイドルタイムアウト後にログイン画面が表示されないことがある

クラスタ管理コンソールが非アクティブになり、セッションがタイムアウトした場合、コンソールでの次の動作によってユーザーはログイン画面に戻されます。ただし、次の動作としてソートまたは新しいページを要求した場合、データはソートされず、ページもロードされません。

回避策: ブラウザの更新機能を使い、ログイン画面を表示します。

クラスタ管理コンソールに対する通知ポリシーのデフォルトの SMTP アドレスと SNMP アドレス

通知設定を行うとき、[SMTP 設定の編集 (Edit SMTP Settings)] タスクで、デフォルトの電子メールアドレスと SNMP コンソールアドレスを入力するように指示されます。ポリシー設定ウィザードでは、ここで指定したアドレスのみを使って、ポリシー設定中に受信者リストを表示します。このウィザードでは、アドレスを使ってポリシーを自動的に設定しません。

通知ポリシー設定ウィザードを起動すると、指定したデフォルトの電子メールアドレスが [通知の受信者 (Notification Recipients)] ダイアログボックスに表示されます。

電子メールアドレスをこのリストに追加した場合、ウィザードでそのアドレスがデフォルトのアドレスとともにポリシーに追加されます。

受信者リストのデフォルトの電子メールアドレスは、そのアドレスをポリシーに設定するために残してください。

デフォルトの SNMP アドレスを指定する場合も同様です。

セキュアモードのクラスタをグローバルクラスタ設定に追加できない

クラスタがセキュアモードで設定されている場合は、リモートクラスタを VCS グローバルクラスタ設定に追加できません。

回避策: リモートクラスタの追加と削除タスクウィザードを実行後、次の VCS ha- コマンドを使ってリモートクラスタ設定を手動で終了する必要があります。

```
hahb -modify Icmp Arguments remote_cluster_virtual_IP -clus  
remote_cluster_name
```

[1137108]

VCSMC ユーザーがクラスタ管理者権限なしでクラスタを設定しているように見える

クラスタに対する管理者権限がなくても管理サーバーの **root** ユーザーが管理のためにクラスタを設定できるように見えることがあります。同じことが他の VCSMC ユーザー（管理サーバーユーザー）にも当てはまります。

特に、クラスタに対する管理者権限のない VCSMC ユーザーがクラスタコネクタにクラスタを供給できることがあります。インストールタスクと設定タスクでは、コンソールにエラーメッセージは生成されません。

ただし、どのクラスタコネクタのインストールタスクも設定タスクも実際は実行されていません。タスクが成功したように見えても、管理サーバーは、表面上は設定されているクラスタに接続できません。[1072325]

ローカライズに関する問題

リソース依存関係ツリーの日本語タイトルが不完全

ナビゲーションツリーでグローバルサービスグループをクリックし、[依存関係 (Dependency)] 詳細タブをクリックすると、そのサービスグループのリソース依存関係ツリーが表示されます。依存関係ツリーのタイトルは、[リソースの依存関係の表示:すべてのシステムの [グローバルサービスグループ名] (Resource dependency view: [global service group name] for all systems)] です。これは、リソース依存関係ツリーがグローバルクラスタのすべてのシステムでのサービスグループ設定を表していることを意味します。

ナビゲーションツリーでグローバル以外のサービスグループをクリックし、[依存関係 (Dependency)] 詳細タブをクリックすると、そのサービスグループのリソース依存関係ツリーが表示されます。依存関係ツリーのタイトルは、[リソースの依存関係の表示:システム [システム名] の [グローバル以外のサービスグループ名] (Resource dependency view: [non-global service group name] for system [system name])] です。これは、リソース依存関係ツリーが 1 つのシステムのサービスグループ設定を表していることを意味します。

ただし、管理サーバーにログインするときに日本語を選択し、前述の操作を実行した場合は、リソース依存関係ツリーのタイトルにサービスグループとシステムの情報が表示されません。日本語のタイトルは、グローバルサービスグループを選択してもグローバル以外のサービスグループを選択しても [リソースの依存関係の表示 (Resource dependency view)] と表示されます。[1145011]

不正な日本語文字列の表示

ログイン時に日本語を選択し、サービスグループの [依存関係 (Dependency)] 詳細タブに移動した場合にコンソールに表示される文字列が正しくありません。誤って表示されている文字列は [サービスグループの依存関係ビュー (Service group dependency view)] です。サービスグループの [依存関係

(Dependency)] 詳細タブに表示されるのは、サービスグループの依存関係ツリーではなく、リソースの依存関係ツリーです。サービスグループ依存関係ツリーは、クラスタの [グループの依存関係 (Group Dependency)] 詳細リンクに表示されます。表示されるべき正しい文字列は、[リソースの依存関係の表示 (Resource dependency view)] です。[1145224]

日本語を選択した場合、多くの入力フィールドで国際文字がサポートされない

ローカライズされたコンソールの入力フィールドでは、国際文字をサポートしない場合があります。

次の入力フィールドに国際文字を入力すると、間違った結果が生成されることがわかっています。

- ログインなど、ユーザー名フィールド
- ログインなど、ホスト名フィールド
- ログインなど、ドメイン名フィールド
- クラスタ名、サービスグループ名、リソース名、システム名などのオブジェクト名を入力するフィールド
- タグ名を入力するフィールド
- ディレクトリパスを入力するフィールド
- サービスグループの作成またはリソースの依存関係に関するフィールド
- レポートの作成に関するフィールド

回避策：ローカライズされたコンソールではこのようなすべての入力フィールドに ASCII 文字のみを使います。[1146736]

VCS 管理コンソールの言語パックをインストールしても以前のバージョンが削除されない

この問題は、VCS 管理コンソールの言語パックを、ソフトウェアの以前のバージョンがインストールされている Windows システムにインストールする場合に発生します。プロセスは新しい言語パックのファイルをインストールしますが、以前のファイルを削除しません。[1127524]

回避策：この問題は、製品の動作には影響しません。エラーを無視してください。

マニュアルの補足

ここでは、バージョン 5.1 の『Veritas Cluster Server 管理コンソール実装ガイド』に記載されていない最新情報について説明します。

管理サーバーのバックアップ

実装ガイドには、データベースのバックアップを作成する手順が記載されています。管理サーバーのバックアップを作成することも重要です。[1138290]

メモ: 管理サーバーを停止してからこの手順を開始することをお勧めします。ただし、必須ではありません。

管理サーバーのバックアップを作成するには

- 1 コマンドプロンプトを表示し、次のコマンドを入力します。
 - UNIX の場合
`/etc/init.d/vxcmweb stop`
 - Windows の場合：
`net stop CMCweb`
- 2 データフォルダ全体のバックアップを作成します。
 - UNIX のデフォルトフォルダ名
`/opt/VRTScmcm/data`
 - Windows のデフォルトフォルダ名
`C:¥Program Files¥Symantec¥VRTScmcm¥data`
- 3 次のファイルのバックアップを作成します。
 - UNIX の場合
`/opt/VRTScmcm/datadir.conf`
 - Windows の場合：
`C:¥Program Files¥Symantec¥VRTScmcm¥datadir.conf`
- 4 VxSS 認証ブローカーの設定のバックアップを作成します。
詳しくは LBN を参照してください。

管理サーバーをリストアするには

- 1 データフォルダをもとの場所にコピーします。
- 2 `datadir.conf` をもとの場所にコピーします。
- 3 VxSS 設定をリストアします。
詳しくは LBN を参照してください。
- 4 次のコマンドを入力して管理サーバーを再起動します。

- UNIX の場合
/etc/init.d/vxcmweb start
- Windows の場合
net start CMCweb

ポート割り当てと有効化

VCS 管理コンソールに必要なポート割り当てを以下に示します。[1076796]

- 管理サーバーポート : 14145
- VxSS ポート : 2821
- ASA ポート : 14994
- Web サーバー : 14443

ファイアウォールを経由して通信するには、次の通信パスを開く必要があります。

- 管理サーバー <-> 管理サーバー (ピアセットアップを有効にするため)
- 管理サーバー -> クラスタ (管理サーバーへの直接接続を有効にするため)
- クラスタコネクタ -> 管理サーバー (クラスタコネクタを経由した接続を有効にするため)
- クラスタコネクタ -> 管理サーバー上の認証ブローカー
- cc_configure.sh/bat -> 管理サーバーの Web サーバー

マニュアルの正誤表

ここでは、バージョン 5.1 の『Veritas Cluster Server 管理コンソール実装ガイド』の訂正を行います。トピック名は、入れ替えるトピックの名前と同じです。

バックアップからのデータベースのリストア

「データベースの管理」のトピック「バックアップからのデータベースのリストア」の内容を次の内容と入れ替えます。[641268]

gadbrestore コマンドを使うための必須タスク

アーカイブバックアップから管理サーバーデータベースをリストアする前に、次を実行する必要があります。

- 管理サーバーを停止する
- データベースを停止する
- 現在のデータベースのデータとログのファイル名を変更するか、一時ディレクトリに移動する

データベースファイルの名前の変更または移動を行わないと、gadbrestore コマンドはこれらがすでに存在すると見なし、エラーメッセージを生成します。

UNIX プラットフォームのメッセージは次のようになります。

```
CMC (cli.database.fileAlreadyExist): CCAvailDb.db はすでに次の場所に存在します: (CCAvailDb.db already exist in the location: ) /opt/VRTScmcm/data/db
```

Windows プラットフォームのメッセージは次のようになります。

```
CMC (cli.database.fileAlreadyExist): CCAvailDb.db はすでに次の場所に存在します: (CCAvailDb.db already exist in the location: ) C:\Program Files\Symantec\VRTScmcm\database\data\%db
```

UNIX プラットフォームで管理サーバーを停止するには

- ◆ 管理サーバーのホストシステムで、コマンドプロンプトを表示し、次のコマンドを 1 行で入力します。

```
/etc/init.d/vxcmweb stop
```

Windows プラットフォームで管理サーバーを停止するには

- 1 管理サーバーのホストシステム上で、スタートメニューで [プログラム]、[管理ツール]、[サービス] の順に選択します。
- 2 サービスマネージャのサービスのリストで、[Veritas Cluster Server Management Console Web Server] をクリックします。

場合によっては、このサービスを見つけるためにリストをスクロールする必要があります。

- 3 [操作]、[停止] の順に選択します。

UNIX プラットフォームでデータベースを停止するには

- ◆ 管理サーバーのホストシステムで、コマンドプロンプトを表示し、次のコマンドを 1 行で入力します。

```
/opt/VRTScmcm/data/db/db_stop.sh
```

この例では、データフォルダが /opt/VRTScmcm/data であると想定しています。

Windows プラットフォームでデータベースを停止するには

- ◆ 管理サーバーのホストシステムで、コマンドプロンプトを表示し、次のコマンドを 1 行で入力します。

```
C:¥Program Files¥Symantec¥VRTScmcm¥data¥db¥db_stop.bat
```

この例では、データフォルダが C:¥Program Files¥Symantec¥VRTScmcm¥data であると想定しています。

gadbrestore コマンドを使ったデータベースのリストア

データベースはコマンドラインからのみリストアできます。gadbrestore コマンドを使うため、管理サーバーに管理者権限を持つユーザーとしてログインする必要があります。

メモ: CLI は英語以外の文字を使ったディレクトリに対しては gadbrestore コマンドをサポートしません。

バックアップからデータベースをリストアするには、

- 1 管理者権限を持つユーザーとして管理サーバーのホストシステムにログインします。

UNIX プラットフォームでは、管理者権限を持つユーザーアカウントは root です。

Windows プラットフォームでは、管理者権限を持つユーザーアカウントは Administrator です。

- 2 コマンドプロンプトを表示し、次のコマンドを 1 行で入力します。

```
gadbrestore -archive ArchiveFile -data DatabaseDataDir -log DatabaseLogDir
```

- 3 データベースが正常にリストアされたら、管理サーバーを起動します。

gadbrestore コマンドの引数

Windows プラットフォームでは、データファイルとログファイルは、VCS 管理コンソールデータディレクトリの $\%db$ ディレクトリに格納されています。

このディレクトリを **gadbrestore** コマンドの **-data** と **-log** 引数の値として指定します。

UNIX プラットフォームでは、データファイルとログファイルは、VCS 管理コンソールのインストールディレクトリの `/db` ディレクトリに格納されています。

このディレクトリを **gadbrestore** コマンドの **-data** と **-log** 引数の値として指定します。

-archive 引数の値としてアーカイブバックアップファイル名を指定します。次の形式でバックアップファイル名を指定する必要があります。

```
/backup-path/CCAvailDbBackUp@<yyyy-mm-dd_hh_mi_ss>.1
```

ここで、*backup-path* と *yyyy-mm-dd_hh_mi_ss* は、バックアップファイルへのパスとタイムスタンプをそれぞれ示す変数です。

メモ: パスにスペースが含まれている場合は、**gadbrestore** コマンドの引数を指定するときにそのパスを二重引用符で囲む必要があります。

UNIX プラットフォームでの例は次のようになります。

```
gadbrestore -archive /var/backups/CCAvailDbBackUp@2006-03-07_11_45_17.1 -data /opt/VRTScmcm/data/db -log /opt/VRTScmcm/data/db
```

Windows プラットフォームでの例は次のようになります。

```
gadbrestore -archive C:\%Backups%\CCAvailDbBackUp@2006-07-07_11_45_17.1 -data "C:\%Program Files%\Symantec\VRTScmcm\data\%db" -log "C:\%Program Files%\Symantec\VRTScmcm\data\%db"
```

リストア後のタスク

データベースが正常にリストアされたら、管理サーバーを起動します。

UNIX プラットフォームで管理サーバーを起動するには

- ◆ 管理サーバーのホストシステムで、コマンドプロンプトを表示し、次のコマンドを 1 行で入力します。

```
/etc/init.d/vxcmweb start
```

Windows プラットフォームで管理サーバーを起動するには

- 1 スタートメニューで、[プログラム]、[管理ツール]、[サービス] の順に選択します。

- 2 サービスマネージャのサービスのリストで、[Veritas Cluster Server Management Console Web Server] をクリックします。
場合によっては、このサービスを見つけるためにリストをスクロールする必要があります。
- 3 [操作]、[開始] の順にクリックします。

cc_configure.sh を使うとクラスタコネクタのアップグレードに失敗する

セキュアモードの VCS 5.0MP1 クラスタでクラスタ設定ツール `cc_configure.sh` を使ってクラスタコネクタをアップグレードすると、AIX プラットフォームではアップグレードに失敗することがあります。[1122232] これは、次のフォルダでのインストール後のタイプ定義の上書きが原因で起きます。

```
/etc/VRTSvcs/conf/config
```

次の推奨される回避策のいずれかを選択してください。

- VCS 管理コンソールの設定ウィザードを使ってクラスタコネクタをアップグレードする
- VRTScmccc パッケージを再インストールする
- クラスタコネクタの最新のタイプ定義ファイル (ClusterConnectorConfigType.cf) を他のクラスタから次のフォルダにコピーする

```
/etc/VRTSvcs/conf/config
```

https ログインで表示されるランダム文字

「トラブルシューティング」のトピック「Random characters displayed on https login」の内容を次の内容と入れ替えます。[1096142]

タイトルに誤りがあります。正しいタイトルは、「http ログインで表示されるランダム文字」です。

URL `http://IPaddress:14443` を使ってログインすると一部のブラウザにランダム文字が表示されることがあります。これは、一時的で異常な結果で、コンソールには関係がありません。

回避策: ブラウザのアドレスボックスに次の https 形式のログイン URL を入力して、コンソールにログインします。

```
https://IPaddress:14443
```


Firefox 2.0 でのクラスタ化管理サーバーの設定

「トラブルシューティング」のトピック「**Configuring a clustered management server on Firefox 2.0**」の内容を次の内容と入れ替えます。[1099789]

管理サーバーのクラスタ化は VCS バージョン 5.0 以上でのみサポートされます。以前のバージョンがインストールされているクラスタでクラスタ化管理サーバーを設定しようとすると、エラーメッセージが表示されます。

エラーメッセージボックスは、[Clustered MS] オプションを選択して [次へ (Next)] をクリックしたときに表示されます。Firefox 2.0 ブラウザを使っている場合は、このメッセージボックスの [閉じる (Close)] ボタンが機能しません。

回避策: ブラウザウィンドウの右上にある赤色の X をクリックして、ブラウザを終了しメッセージボックスを削除します。

Symantec Web サーバーについて

付録 G のトピック「Symantec Web サーバーについて」の内容を次の内容と入れ替えます。[1047453]

Symantec Web Server (VRTSweb) は、Veritas Cluster Server や Veritas Volume Replicator など、様々な Symantec Web コンソールが共有する Web サーバーコンポーネントです。

VCS 管理コンソール 5.1 では、VRTSweb は管理サーバーに組み込まれ、VRTSweb の共有インスタンスから独立して動作します。

インストールパスは次のとおりです。

- UNIX の場合
/opt/VRTScmcm/VRTSweb
- Windows の場合 :
C:\Program Files\Symantec\VRTScmcm\VRTSweb

この付録では、VRTSweb の管理方法と、一般的な設定の方法について説明します。

VRTSweb はコマンドラインで管理します。次のパスからコマンドを実行します。

- UNIX の場合
/opt/VRTScmcm/VRTSweb/bin/
- Windows の場合 :
C:\Program Files\Symantec\VRTScmcm\VRTSweb\bin\

管理ポートの変更

付録 G のトピック「管理ポートの変更」の内容を次の内容と入れ替えます。
[1047453]

VRTSweb の管理ポートは変更可能です。

管理ポートを変更するには

- 1 管理サーバーがクラスタ化されている場合は、CMC_MS サービスグループをフリーズします。
- 2 Web サーバーを停止します。
VRTSweb がインストールされたシステムで、VRTSweb インストールディレクトリの bin サブディレクトリから次のコマンドを実行します。
`webgui stop force`
- 3 管理ポートに新しい値を設定します。
`webgui adminport new_port_no`
- 4 Web サーバーを再起動します。
`webgui restart`
- 5 管理サーバーがクラスタ化されている場合は、CMC_MS サービスグループをアンフリーズします。

VRTSweb の最大ヒープサイズの変更

付録 G のトピック「VRTSweb の最大ヒープサイズの変更」の内容を次の内容と入れ替えます。[1047453]

VRTSweb JVM (Java Virtual Machine) のデフォルトの最大ヒープサイズは、768 MB です。大規模な設定用にこの制限を変更する必要があります。
VRTSweb の最大ヒープサイズは、コマンドラインからのみ変更できます。

最大ヒープサイズを変更するには

- 1 VRTSweb がインストールされたシステムで、VRTSweb インストールディレクトリの bin サブディレクトリから次のコマンドを実行します。
`webgui maxheap new_size_in_MB`
次に例を示します。
`webgui maxheap 512`
- 2 新しい制限値を指定した後は、Web サーバーを再起動する必要があります。
`webgui restart`
- 3 現在の制限値を表示します。
`webgui maxheap`

システムでの属性の編集

このタスクでは、システム属性を編集できます。

このタスクを実行するために指定したオブジェクトには、次のいずれかの権限が必要です。

- 編集する属性が設定されているシステムの親クラスタに対する管理者権限
- 編集する属性が設定されているシステムの親クラスタに対するオペレータ権限

メモ: このタスクを開始する前に、システムの詳細を 1 つ表示している必要があります。

属性表を使ってクラスタ属性を編集するには

- 1 詳細タブバーで、[プロパティ (Properties)] をクリックします。
- 2 [All attributes for system] 表で、編集する属性の行項目を検索します。すべての属性を編集できるわけではありません。
- 3 [編集 (Edit)] 列で、[...] (編集) ボタンをクリックします。
- 4 [属性の編集 (Edit Attribute)] で、次の属性詳細を指定します。
 - 属性値
[値 (Values)] フィールドで、変更する値をクリックするか、または [+] (プラス) ボタンをクリックして値を追加します。値をクリックしてから [- (マイナス)] ボタンをクリックして値を削除します。
一部の属性では 2 つ以上の値を入力できます。上矢印と下矢印ボタンを使って複数の値の間でスクロールします。
 - 変更する属性があるシステム
[値の適用先 (Apply value to)] オプションの設定を指定します。[すべてのノードに適用 (Apply to all nodes)] は、[システムリスト (System List)] にリストされるすべてのシステムに変更を適用します。このリストは、属性が設定されているシステムをすべて一覧で示すものです。[選択したノードに適用 (Apply to selected nodes)] では [システムリスト (System List)] からノードを選択できます。
属性を指定したら、[OK] をクリックします。
- 5 最後のパネルで、タスクの結果に関するメッセージを読み、次に [閉じる (Close)] をクリックします。

Windows クラスタからのクラスタコネクタのアンインストール

「クラスタコネクタのインストールと設定」のトピック「Windows クラスタからのクラスタコネクタのアンインストール」の内容を次の内容と入れ替えます。
[1136107]

Windows の [プログラムの追加と削除] コントロールパネルを使って、クラスタコネクタをアンインストールします。

Windows プラットフォームからクラスタコネクタをアンインストールするには

- 1 スタートメニューで、[設定]、[コントロールパネル]、[プログラムの追加と削除] の順に選択します。
- 2 [プログラムの追加と削除] コントロールパネルの [現在インストールされているプログラム] リストで、[VCS MC Cluster Connector 5.1 for Windows] をクリックします。
場合によっては、このエントリを見つけるためにリストをスクロールする必要があります。
- 3 選択したエントリの右側で、[変更 / 削除 (Change/Remove)] をクリックします。
- 4 クラスタコネクタをアンインストールするための VCS MC Windows 5.1 用の Symantec Product Installer が起動します。[次へ (Next)] をクリックします。

VCS 管理コンソール 5.1 へのアップグレード

「VCS 管理コンソールのインストール、アップグレード、アンインストール」のトピック「VCS 管理コンソール 5.1 へのアップグレード」の内容を次の内容と入れ替えます。[1100305]

スタンドアロンシステムでのみ Veritas Cluster 管理コンソール 5.0 をアップグレードできます。VCS 管理コンソールは、クラスタ化管理サーバーでフレッシュインストールのみをサポートします。アップグレードプロセス中に認証サービスを設定する必要はありません。

CommandCentral Availability 4.1 MP1 から VCS 管理コンソール 5.1 にアップグレードするには、管理対象クラスタにユーザーを追加してクラスタ権限を割り当てる必要があります。VCS 管理コンソールは、デフォルトではクラスタ管理者権限を管理サーバーの管理者に割り当てません。

管理サーバー 5.0 から 5.1 へのアップグレード中、スケジュールレポートは正しく更新されません。ユーザーインターフェースには、日次、週次、月次、特定の日付など 1 つのスケジュールタイプのみ表示されます。レポートに複数のスケジュールを選択する場合は、そのレポートのクローンを作成して再びスケジュー

ル設定する必要があります。レポートが1つのレポートタイプに対してスケジュール設定されていない場合は、そのレポートはアップグレードされます。

ピア管理サーバーをアップグレードするには、ピア管理サーバーからローカル管理サーバーに証明書を転送して、**-importcert** オプションを使ってその証明書をインポートする必要があります。

アップグレードしたピア管理サーバーを設定するときには、手順で指定されている**-import** オプションではなく、**-importcert** オプションを使います。**-import** オプションは、バージョン 5.1 の新しいインストールでピア管理サーバーを設定するときに使います。

Solaris システムへの日本語言語パックのインストール

「VCS 管理コンソールのインストール、アップグレード、アンインストール」のトピック「Solaris システムへの日本語言語パックのインストール」の内容を次の内容と入れ替えます。

VCS 管理サーバーの日本語言語パックをインストールするには
次のように訂正します。

管理サーバーの日本語言語パックをインストールするには

システムのフリーズ

「アプリケーションの高可用性の管理」のトピック「システムのフリーズ」の内容を次の内容と入れ替えます。

次の表に、この手順に適切な権限を示します。

権限	オブジェクト
管理者	フリーズさせるシステムの親クラスタ
オペレータ	フリーズさせるシステムの親クラスタ

システムのアンフリーズ

「アプリケーションの高可用性の管理」のトピック「システムのアンフリーズ」の内容を次の内容と入れ替えます。

次の表に、この手順に適切な権限を示します。

権限	オブジェクト
管理者	アンフリーズさせるシステムの親クラスタ

権限	オブジェクト
オペレータ	アンフリーズさせるシステムの親クラスタ

システムでの属性の編集

「アプリケーションの高可用性の管理」のトピック「システム属性の編集」の内容を次の内容と入れ替えます。

次の表に、この手順に適切な権限を示します。

権限	オブジェクト
管理者	編集する属性が設定されているシステムの親クラスタ
オペレータ	編集する属性が設定されているシステムの親クラスタ

クラスタ化 Windows システムからのアンインストール

「VCS 管理コンソールのインストール、アップグレード、アンインストール」のトピック「クラスタ化 Windows システムからのアンインストール」の内容を次の内容と入れ替えます。

Windows の [プログラムの追加と削除] コントロールパネルを使って、管理サーバーをアンインストールします。クラスタ化管理サーバーをアンインストールする前に CMC_MS サービスグループをオフライン状態にしてください。

管理サーバーをクラスタ化 Windows システムからアンインストールするには次の手順に従います。

クラスタ化 Windows システムから管理サーバーをアンインストールするには

- 1 スタートメニューで、[設定]、[コントロールパネル]、[プログラムの追加と削除] の順に選択します。
- 2 [プログラムの追加と削除] コントロールパネルの [現在インストールされているプログラム] リストで [VCS 管理コンソール 5.1 for Windows] をクリックします。
場合によっては、このエントリを見つけるためにリストをスクロールする必要があります。
- 3 選択したエントリの右側で、[変更 / 削除 (Change/Remove)] をクリックします。
- 4 管理サーバーをアンインストールするための Symantec Product Installer が起動します。[次へ (Next)] をクリックします。

- 5 [コンピュータの選択 (Computer Selection)] ダイアログボックスで、次の手順を行います。
 - ドメイン名と管理サーバーをアンインストールするノードを選択します。[追加 (Add)] をクリックします。アンインストールするために選択したノードの有効性が確認されます。
 - インストールパスを変更するには、[変更 (Change)] をクリックします。
 - [次へ (Next)] をクリックします。
- 6 アンインストールプロセスの概略を確認します。[アンインストール (Uninstall)] をクリックします。VCS 管理コンソールが選択したノードからアンインストールされます。
- 7 アンインストールレポートをチェックします。[次へ (Next)] をクリックします。
- 8 [完了 (Finish)] をクリックしてこのウィンドウを閉じます。

クラスタコネクタの設定

「クラスタコネクタのインストールと設定」のトピック「クラスタコネクタの設定」の内容を次の内容と入れ替えます。

このトピックには次の見出しに誤りがあります。

管理サーバーコンソールを使ったクラスタコネクタの設定

この見出しを次のように訂正します。

VCS 管理コンソールを使ったクラスタコネクタの設定

UNIX クラスタへのクラスタコネクタのインストール

「クラスタコネクタのインストールと設定」のトピック「UNIX クラスタへのクラスタコネクタのインストール」の内容を次の内容と入れ替えます。

このトピックには次の段落があります。

ローカルでクラスタ化された管理サーバーに接続されている管理サーバーと同じクラスタにクラスタコネクタをインストールするには、次の手順に従います。

この段落を次のように訂正します。

UNIX クラスタノードにクラスタコネクタをインストールするには、次の手順に従います。この手順を使って、クラスタ化管理サーバーをホストするクラスタにクラスタコネクタをインストールすることもできます。クラスタ化管理サーバー設定ではクラスタコネクタは必要ありませんが、クラスタコネクタを使うと、バッファリングなどのメリットを利用できます。

クラスタコネクタ 5.1 へのアップグレード

「クラスタコネクタのインストールと設定」のトピック「クラスタコネクタ 5.1 にアップグレード」の内容を次の内容と入れ替えます。

このトピックには次の段落と箇条書きがあります。

CMC 5.0 クラスタコネクタは **VCS 管理コンソール 5.1** と互換性がありません。**VCSMC 5.1** にアップグレードすると、クラスタに接続されているすべてのクラスタコネクタは **UNKNOWN** 状態になります。対象のクラスタでクラスタコネクタのパッケージを **VCS バージョン 5.1** にアップグレードする必要があります。アップグレード後、次のいずれかの方法でこれらのクラスタ上のクラスタコネクタを再設定します。

- 管理サーバーのコンソール
- クラスタコネクタのスクリプト

この段落と箇条書きを次のように訂正します。

クラスタ管理コンソール **5.0** のクラスタコネクタは **VCS 管理コンソール 5.1** と互換性がありません。**VCS 管理コンソール 5.1** にアップグレードすると、クラスタに接続されているすべてのクラスタコネクタは **FAILED** 状態になります。

この問題を解決するために、対象のクラスタでクラスタコネクタのパッケージを **VCS 管理コンソール 5.1** のクラスタコネクタにアップグレードする必要があります。

アップグレード後、次のいずれかの方法でこれらのクラスタ上のクラスタコネクタを再設定します。

- **VCS** 管理コンソール
- クラスタコネクタのスクリプト

メモ: リソースが **FAILED** 状態にならないようにするには、管理サーバーをアップグレードする前にクラスタ上の **CMC** (または **CCAvail**) サービスグループをオフライン状態にします。クラスタコネクタのパッケージをアップグレードしても、**CMC** (または **CCAvail**) サービスグループは **OFFLINE** 状態のままです。クラスタコネクタのパッケージは、管理サーバーのアップグレード前またはアップグレード後にアップグレードでき、アップグレードと同時にアップグレードできます。クラスタコネクタのアップグレード後の設定では、アップグレードした管理サーバーがオンライン状態になっている必要があります。完了すると、クラスタコネクタの設定プロセスは **CMC** サービスグループをオンライン状態のままにします。

ソフトウェアの制限事項

次のソフトウェア制限事項がこのリリースに適用されます。

既知の問題と最新情報について詳しくは、<http://entsupport.symantec.com/docs/290657> を参照してください。

VCS 管理コンソール 5.1 は Linux プラットフォームの Firefox をサポートしない

Linux プラットフォームの Firefox は、特定の重要機能をサポートせず、そのためにサポート対象になっていません。

Firefox 1.5 では特定のツールヒント が切り取られて表示される

Firefox では、複数のツールヒントを表示できないため、特定のツールヒントが切り詰められて表示されます。

スケジュール設定された複数のレポートが 5.0 から 5.1 に正しくアップグレードされないときがある

バージョン 5.1 では、レポートのスケジュール設定が簡単になりました。マルチスケジュール設定されたレポートは、1つのスケジュールタイプに表示されるようになりました。アップグレードしたら、レポートの変更またはクローン作成を行う必要がでてくる場合があります。

一部の OS バージョンでクラスタコネクタがサポートされない

クラスタ管理コンソールは、AIX 5.1、Solaris 7、RHEL 3.0 上のクラスタコネクタをサポートしていません。このプラットフォームのいずれかでクラスタが動作する場合、直接接続を使って管理サーバーからそのクラスタを管理します。

ピア管理サーバーサポートの制限

ピア管理サーバーのサポートは、エンタープライズ内で 2 台の管理サーバーを設定することに制限されています。エンタープライズ内で 3 台以上の管理サーバーを設定することはこのリリースではサポートされていません。

管理サーバーが GCM (Global Cluster Manager) 3.5 Master と共存できない

クラスタ管理コンソールの管理サーバーは、GCM 3.5 Master と同じシステムにインストールしないでください。この 2 つの製品は、お互いに競合するため、同じシステムでの実行はサポートされていません。

エージェント目録レポートにエージェント情報ファイルが必要

設計上、エージェント目録レポートには、個々のエージェントに関して報告される情報を提供するエージェント XML ファイルが必要です。VCS エージェントにはこれらの XML ファイルが含まれているため、この問題は VCS エージェントでは発生しません。この問題は、エージェント XML ファイルを含んでいないカスタムエージェントで発生する可能性があります。

グローバルクラスタは CMC が管理するクラスタでなければならない

VCS グローバルクラスタオプションを使ってグローバルクラスタを形成しているすべてのクラスタが管理対象クラスタであることを確認してください。これにより、Veritas クラスタ管理コンソールのビューに一貫性のある正しい情報が表示されるようになります。管理対象クラスタは、クラスタコネクタを実行するか、または管理サーバーとの直接接続を確立します。

Windows Active Directory のインストールに NetBIOS が必要

クラスタ管理コンソールの管理サーバーを Windows Active Directory ドメインにインストールする場合は、NetBIOS を有効にする必要があります。ネイティブ (NetBIOS 以外) の Active Directory 環境はこのリリースではサポートされていません。

マニュアル

製品マニュアルは、PDF 形式でディスクに収録されています。インストールガイドやリリースノートなどの関連する情報を参照用にディスクからシステムディレクトリ /opt/VRTS/docs にコピーすることをお勧めします。

Veritas クラスタ管理コンソールのマニュアル

Veritas クラスタ管理コンソールに関する情報は、オンラインヘルプに加えて、次のマニュアルに記載されています。

マニュアル名（ファイル名）	説明
Veritas Cluster Server 管理コンソール実装ガイド (vcmc_implementation.pdf)	複数のクラスタを管理するために Veritas Cluster Server 管理コンソールをインストール、設定、管理する方法について説明しています。
Veritas Cluster Server 管理コンソールスタートガイド (getting_started.pdf)	はじめに実行する内容を説明します。
Veritas Cluster Server 管理コンソールリリースノート (vcmc_notes.pdf)	Veritas クラスタ管理コンソールに関する最新情報を提供します。

マニュアルに関するご意見やご感想

製品マニュアルに関するご意見、ご感想をお待ちしています。改善点のご提案、誤記や記載漏れなどを clustering_docs@symantec.com 宛にお送りください。お送りいただくときには、マニュアルのバージョン、署名タイトル、章、テキストのセクションを記載してください。

